

令和4年度第1回美浦村定例教育委員会議事録

- 開会日時 令和4年4月22日（金）午前9時30分
- 閉会日時 令和4年4月22日（金）午前10時5分
- 開会場所 美浦村役場 3階 大会議室
- 出席委員等

教育長	富永 保
教育長職務代理者	山崎 満男
委 員	小峯 健治
委 員	浅野 千晶
- 出席事務局職員

教育部長	菅野 眞照
学校教育課長	小山 久登
指導室長	森永 佐由美
子育て支援課主任	小口 敏志
生涯学習課長	吉原 克彦
美浦幼稚園長	矢崎 和子
大谷保育所長	保科 八千代
木原保育所長	鈴木 玉恵
- 欠席委員 石橋 慎也
- 傍聴人 0人
- 提出議案及び議決結果

案 件		審議結果
議案第1号	美浦村立美浦幼稚園運営規程の一部を改正する規程	可決
議案第2号	美浦村立木原保育所運営規程の一部を改正する規程	可決
報告第1号	美浦村学校教育指導方針について	—

○教育長

ただいまより、令和4年度第1回定例教育委員会を開会いたします。本日の会議は、出席委員3名、石橋委員より事前に欠席をする旨の連絡がございましたので欠席委員1名でございます。教育委員会会議規則第17条第2項により、議事録署名委員を指名いたします。浅野委員、お願いいたします。

【議案第1号 美浦村立美浦幼稚園運営規程の一部を改正する規程】

【美浦幼稚園長 説明】

【質疑】

○小峯委員

各2クラスということで、教諭の人数が減るのはいたし方ないと思うんですが、あと4、5年の今後の見通しというのは何かありますか。あれば教えていただきたい。

○美浦幼稚園長

美浦村の子どもの人数は若干減ってはおりますが、美浦幼稚園ではなく、大谷保育所、木原保育所に入所する子もいますので、あまり変わらないかと思われます。

○小峯委員

私も今までの報告を聞いていると、そんなに子どもの数は減らないんじゃないかなという見通しを持っていたんですが、今回職員が2人も減ると。それから、保育所ではプラス1人となっているので、トータルではマイナス1人になってしまうと。今後の幼稚園、保育所の運営についてどうなのかなという見通しを知りたくて質問いたしました。以上です。

○山崎教育長職務代理者

幼稚園と保育所の両方にお聞きしたいんですけれども、これで待機児童はでないという予測でこうなったのかということをお願いいたします。

○美浦幼稚園長

現在、幼稚園は、3歳児が20名1クラスという定員がありまして、今の幼稚園の子どもたちの人数からこの職員数となっております。また、待機児童は今のところゼロということで、大丈夫となっております。

○山崎教育長職務代理者

多分、この先の子どもの人数を押さえて、こういう配置になったと思うんです。おそらくこれは部長への質問になるかと思うんですが、今後大丈夫かどうかということを確認したい。

○教育部長

ただいまの小峯委員、それから山崎教育長職務代理者の質問につきまして、同じ内容の質問かと思えます。要は、子どもたちの人数と村が運営をしております幼稚園、保育所の人員配置についてかと思えます。待機児童を出さないという大前提がございまして、そこに対して村が適切な人員配置をしていくと。村立ですから、その義務がございまして。ただ、その中で、幼稚園にしても、保育所にしても、職員の配置基準というものが、今回幼稚園が2人減になっておりますが、教育の提供現場に関しては減をしていないということでございます。職員数の中の部分の見直しができないかということを検討したというふうに聞き及んでおりまして、その結果がこういう規程の改正という形になったと聞いております。子どもの数の推移が今後どうなっていくのかということに関しましては、総合教育会議で委員の皆様にもご審議をしていただいて、子ども施設の全体的な見直しをきちんとやっていくという会議をやっていただいたと報告を受けております。その部分も含めて、統合小学校が今年度の実施設設計ということで、先へんど

ん進んでおり、それに合わせて、就学前の幼稚園、保育所も、現在、1園2所の運営をしておりますけれども、その辺も含めて、今年度来年度ときちんと検討していきながら、進めていければと今のところ考えております。今ご心配いただいた部分、一番の懸念である待機児童が出ない体制につきましては、大前提でございますので、それは今までもこれからも変わらずに一生懸命やっていくということでございます。本規程につきましては、あくまでも実際の配置数に合わせて、ご審議いただいて直していくという法体系になっておりますので、4月1日以降の配置を追認していただくような形をさせていただきます。その辺も含めて、今後どういう法体系をしていくのがいいのかについて考えていければと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

【議案第1号 原案どおり可決】

【議案第2号 美浦村立木原保育所運営規程の一部を改正する規程】

【木原保育所長 説明】

【質疑】

○山崎教育長職務代理者

保育士の人数が増えて12人になりましたけれども、申込は大丈夫ですか。定員が決まっているんですが、村で面接とか何かやるでしょ。ちゃんと確保できればいいなと思ひまして。

○木原保育所長

毎年、保育士確保には苦心しておりまして、いろいろな面から募集をしたり、知り合ひに聞いたりして保育士を確保しております。今も不足しておりまして、これからまた募集をかけようと思ひているところでございます。

○山崎教育長職務代理者

今現在ちょうど12人にいますか。

○木原保育所長

現在の人数が12人です。

【議案第2号 原案どおり可決】

【報告第1号 美浦村学校教育指導方針について】

【指導室長 説明】

【質疑】

○小峯委員

大変分かりやすい説明で理解しましたが、教職員のところです。教職員の資質能力の向上ということで今年度は能力を加えたということですが、そうすると本来は、能力という部分で、何か突出したものを加えているのかなと思ひたんですが、昨年度と全く同じ内容なので、具体的にはどういう取組を進めようとしているのか教えてください。

○指導室長

子どもたちが確かな学力を育む、そのためには、教職員が指導力、能力を向上させていかなければいけないという視点がありますので、本年度、ユニバーサルデザインの視点による授業づくりというのを提案させていただき、全4校で実践していければと考えております。新規採用教職員が多くおりますので、そのようなことも踏まえて、通常学級の中でできる特別支援教育の視点を生かした指導、支援の工夫を図るという視点を組み込んでいくというのが一つあります。それから、県の学校教育指導方針の中に茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質の向上に関する指標というものが示されておりますので、こちらにも再確認しながら、自分が今、何年目の教員で、どの目標に向かって行

けばいいのかというのを改めて確認しながら、進めていければと考えております。

○小峯委員

今の説明も大変よく分かるのですが、具体的に教職員の資質・能力の向上の欄に今の部分が少しでも入ると、昨年と違う、バージョンアップしてるなというのが、よく読み取れるんじゃないかと感じ取ったところです。

○指導室長

来年度に向けては、今ご指導いただいた点などを生かしながら、実践、改善をし、取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いします。

○教育長

今回、能力というものを入れさせていただいたのは、このコロナ禍における GIGA スクール、ICT の活用というのは、資質だけではなくやはり能力が必要だろうという考えによるものです。ですから、学校教育の充実を図る 6 つの柱の中のうち特に「確かな学力を育む教育の推進」では、オンラインやリモートでの学習や遠隔授業など、今まであまりやっていないことを身につけなくてはならないことが、今、学校においては急務であります。5 つの中には具体的には書いておりませんが、やはり、指導力の向上に励むという部分の中には、これらが含まれているだろうと私は思っております。あとは、2 番の「豊かな心を育む教育の推進」の中で「相談することができる・相談を受けることができる。」については、教員だけでなく子どもたちの指導も含まれています。今までこういう類いのことはありませんでした。ですから、こういうものを指導するための能力が含まれているというふうにお含みいただければと思います。

○浅野委員

小学校専科指導教員の配置について、具体的にどんなことを教えていただきたいと思っております。

○指導室長

本年度は、美浦村に加配教員といたしまして、専科指導教員を 4 名配置しております。算数、理科、外国語、音楽です。算数と、外国語に関しては、木原小学校に在籍しております。理科は安中小学校に、音楽は中学校に在籍しております。その 4 名が在籍校から時間割を組み、村内の 3 小学校に出向くという形をとって、授業をそれぞれ担当し、専門的に指導しているということでございます。昨年度も、外国語と音楽に関しては、配置させていただいておりましたが、県や国の意向としても、算数や理科といった主要な部分での配置を推進されておまして、本年度、実現できたということでございます。例えば、午前中に大谷小学校で授業をし、午後に安中小学校の授業を受け持ったりする方もいますし、大谷小学校で複数のクラスに出向き、1 日大谷小学校にいるというようなこともあります。時間割によって移動もありますので、4 名がフルに勤務しております。

○浅野委員

音楽、外国語、理科は分かるんですけど、算数って結構時数が多いし、小学校の担任の先生でしたら一番主な指導の分野だと思うんですけども、そこに専門の先生がいらっしゃるということで、時間数が足りるのか疑問に思うんですけど、いかがでしょうか。

○指導室長

算数は、1 日 1 コマは必ず入ってくる教科となっております。本年度は、村の小学校 6 年生の授業に配置し、3 小学校のクラスの中で担当していただいております。どうして 6 年生かというと、美浦村の実態として 5 年生よりも 6 年生の授業に配置しております。また、高学年の先生方の授業時数を軽減するというのもありまして、算数は授業

時数が多いため配置しました。例えば、1週間に4時間あるとしたら4時間全てが空き時間というわけではなく、他学年との授業時数の平準化として、他学年の授業に高学年の先生が教科担任で入るというような組み方もしております。実数としてはどの学年も同じような時数になっております。今年度初めてですので、やりながら学んでいくところもあり、また若い先生方がベテランの専門的なご指導を拝見する場にもなっております。そのようなことでも推進していきたいと考えております。

○浅野委員

先ほどの教職員の能力の向上というところで、やはり ICT を使いこなすというところが今までにないポイントかなと思うんですけども、6番の働き方改革、働き過ぎの抑制みたいなこととの兼ね合いとか、今の教科担任で先生方のご負担が少し減るのかなとか、世代で言えばベテランの先生が若い先生のサポートができるとかそういう仕組みに全体的に役立っているといいかななんて思いました。

○教育長

小学校専科教員が配置された背景には、二つの要因があります。一つは、理数系の成績が美浦において若干下がってきているということでございます。また、外国語の授業が入ってきて、グローバル社会に対応するという中でより専門的になってきたということです。今まで小学校の教員は全教科授業をやっていましたが、より専門の授業ということで、文部科学省では、算数、理科、体育、外国語の4教科について、小学校専科で配置するというところに、現在、力を入れているところでございます。これは、加配措置になっております。これまで、少人数指導加配というのがあったわけですが、小学校においてはこれがなくなりました。その一つの背景としては40人学級から35人学級に1クラスの人数が減少されたということがございます。また、空き時間をつくりながら働き方改革にしよう、校内の中ではその空き時間が出たことによって他学年の指導をしようということで指導時数の平準化ができるように各学校で取り組んでいるところでございます。文部科学省の決まりとして、1人の加配教員について移動を伴って24時間という上限がございます。美浦の場合、複数の学校を受け持つという拠点校方式でまわしているところでございます。いろいろ検討して、今の美浦村の課題として何年生が県平均より低いといったことを洗い出しながら、一つの学年で重点的に指導をやってもらおうということで、今回、算数も理科も外国語も音楽も拠点校方式でやっているところです。当然、統合小学校になったら専科の人数も非常に心配なところではありますが、そのときに考えていきたいと思っております。現在、拠点校方式で働き方改革と授業の充実ということで取り組んでいるということをご理解いただければ大変ありがたいと思っております。

○小峯委員

6番のところですが、部活動の地域移行への積極的な取組とあります。他県の状況なんかを見ていくと、二分化しているというところが多いようです。つまり、徹底的に先生方がのめりこんでいる学校と、それから、先生方の手から離れて地域に委ねているところと二分化している地域が見られてくるようになったということを聞くんですが、本村の場合には、部活動の地域移行への取組というのは、あまりなされていなかったように思っています。この点、方向性としてはどうなのでしょう。可能性というか方向性がもし分かっていたら教えてください。

○教育部長

今、小峯委員からご指摘いただきました部活動の地域移行への積極的な取組につきまして、今日の読売新聞でも大きく記事が載っておりましたが、私が4月に教育部長を拝任した後、教育長からきちんと仕事のご指示をいただいております。その中にこの案件も入っ

ております。昨年度、水戸に視察に行ったりですとか、資料収集をスタートしております、本村はどうするのかということで現在資料収集及び検討を進めているところでございます。いろいろなやり方があるのは今日の新聞を見ていただくとよく分かるのですが、今の段階で正解がなく、今茨城県も審議会を開いているところで、答申が5月下旬となっております。おそらく、文部科学省が言っている土日についての移行を先行するというのが答えとして出てくるかと思っております。じゃあ、本村はどういうパターンでやるのかというところで、今小峯委員からご指摘があったように、頑張る先生がいる学校とそうでない学校が大きく二分しているというのはそのとおりだと思っておりますし、あとは民間の力をどこまで入れるんだというように様々な選択があります。かつ、その正解が明確に決まっていないというものでございますので、よく検討しながら、ある程度方向が出てきた段階で、当然皆様に案として出していきながら進めていければというふうに考えておりますので、すぐ今ここで答えというのはでないんですけれども、今一生懸命資料収集、分析等を進めているというところでございます。

【その他1 美浦村社会教育委員及び美浦村公民館運営審議会委員の委嘱について】

【生涯学習課長 説明】

【質疑なし】